

にじいろ保育園

保護者会

板橋区立中根橋小学校 2026.2.7

今年度、はじめてにじいろ保育園の保護者会に校長が伺い、保護者会の皆様のご質問のお答えしました。



Q:小学校に入学する前にできるように
なったら良いことは何ですか。

A:1 つ目は挨拶です。

自分から言葉を発することができることは、コミュニケーションの第一歩です。「おはようございます」などのあいさつは家庭や保育園でも習慣化されていると思います。自分からできるようになることがポイントです。

2 つ目は後片付けです。

片付けながら料理をすると作業しやすいです。使わないものがあると頭が混乱することがありませんか。子供の学習も同じで、大切なものが目に入らなかったり、手いたずらをしたりと、集中して勉強することが難しくなります。身のまわりをすっきりさせることは、大人になっても役立ちます。入学前にご家庭で取り組んでいただくと嬉しいです。

3 つ目は早く起きる習慣です。

保育園は 7 時半から 9 時くらいと登園時間に幅がありますが、学校は 8 時 5 分から 8 時 20 分くらいが登校時間になっているところが多いです。1 年生でも登校時間を過ぎて来る子がいます。遅刻の意識も薄いようです。遅れて教室に入ると、1 日の生活に出遅れてしまいます。入学前には生活時間を学校の始業時間に合わせるようになると、スムーズな学校生活を送ることができると思

ます。

Q:入学後、通学時の付き添いは可能でしょうか。

A:1 年生に限らず、正門のところまで見送る保護者もいます。また、入学式の翌日から一人で登校をしている子供もいます。近隣の同級生や上級生と一緒に登校できると安心だと思います。

Q:ランドセル以外で入学前に買っておくものを教えてください。

A:入学時に揃えていただきたいものについては、2 月の新 1 年生保護者会で詳しい案内があると思います。

学用品等はシンプルなものが良いです。例えば筆箱にいろいろな機能が付いていれば、それが遊び道具となって学習に集中できないようなこともあります。また、洋服は自分で脱ぎ着ができるもので、鮮やかな色やキラキラの装飾があるようなものは、周りの子も気が散ってしまいます。ですから洋服もシンプルなものが良いと思います。

Q:男の子ですが何年生ぐらいになると
落ち着きますか。

A:小学校に入学したての 1 年生は頑張ろうという意欲が高いので落ち着いています。しかし、学校に慣れていくと

次第にいつもの自分が出てくる子もいます。学校環境への適応というところがポイントだと思います。

そのためには、

- ・規則正しい生活をする。
- ・朝ごはんをしっかり食べてくる。
- ・睡眠は9時間から10時間とる。
- ・自分のことは自分でやろうとする(できなくてもよい、気持ちがあればできるようになる。助けてもらえる。)

この3つができていると学校への適応はスムーズだと思います。

ところで、ゲームやYouTubeに時間をたくさん使うと、人間の脳は疲れます。すると、イライラしてきます。ですから、時間を決めることが大切です。

さらに、うまくいかないことを人のせいにはしないことです。こうした意識がもてると気持ちよく集団生活が送れるようになります。

「落ち着くのは何年生くらい」というのは、子どもそれぞれです。今できることは、自分の生活をマネジメントする力を少しでも付けてあげることです。

すでに療育につながっているお子さんもいると思いますが、発達に特性のあるお子さんは、早い時期に特別支援教育を選択肢に入れることをおすすめします。お子さんの学校生活に違和感があると思うときは、担任に相談して、発達検査を受けることもできます。子供の特性を掴んで対応することが望ましいです。本校では7月と12月に個人面談があります。そのような機会にお子さんの家庭や学校での様子を情報共有して、学校と家庭が同じ方向で学びや生活の環境

を整えることが有効だと考えます。

特別支援教室は、以前は情緒の通級学級と言われていました。保護者が設置されている学校への送り迎えが必要でしたが、今では専門の先生が各学校に週に1・2回来て指導しています。東京都のどの公立小中学校にもあります。人とかかわりが苦手、こだわりが強い、自閉的な傾向、多動など、一人一人の特性に合った指導をしています。およそ週1回2時間の枠の中で、個別指導や集団指導が行なわれています。詳しくは各学校にお聞きになっていただければと思います。

Q:集団生活に慣れるために、家庭でできることはありますか。

A:学校生活を送る上で一番大切な力は話を聞ける、自分の思いや考えを話すことができることです。このことをご家庭で意識していただくだけで子供の成長は大きく違います。

小学校の教室で、手いたずらをしている、姿勢が崩れている姿を見ます。きっと、学習内容が分からない・つまらないと思っているかもしれません。

仕事や学習、スポーツなどは集中力が何より大切です。しかし、集中力はそう長い時間保つことはできません。集中力を付ける練習として、ご家庭で10分ぐらい、親子で向き合って話を聞いたり、聞かせてあげたりすることが大切です。この時間は子供が安心してできるように、テレビなどを消して、静かな環境を作ることです。話すことが苦手な場合は、絵本の読み聞かせも有効です。

話を理解できない、自分の思いを言えないことで、ついイライラして、不適切なかかわりをしてしまい、トラブルになります。すると、お互いに嫌な思いをしたり、叱られたりして、自尊感情が低くなります。話が聞ける・話ができることは集団生活に適應する大きな力です。

また、生活経験の豊かさも学校生活を上手に過ごすために重要です。何も特別な体験をさせることではありません。買い物に連れて行き、野菜や魚の名前を教える。また大人どうしの会話を聞かせ、コミュニケーションの取り方を肌で感じさせることも良いと思います。また、一緒に料理を作ることも素敵です。料理には材料があり、適切な分量があります。そして、何より手順が大切です。これは、プログラミング的思考の要素を多く含んでいます。「何をどのように」という段取り力は、すべての学習を支える能力です。とくに算数や理科の学習には、有効です。

当日の質問

Q:校長先生の話の中で、「人のせいにしない」とありましたが、うちの子はそういうところがあります。どうしたらよいでしょうか。

A:子供にとって、親は安全基地です。自分を受け止めてくれる存在が、パパやママです。まず、お子さんを無条件に受け止めてあげてください。うまくいかなかったことを人のせいにしていると思われるにしても、「くやしかったね」、「いやだったね」と気持ちを言葉にして返してあげることです。大人に気持ちを受け止

めてもらった子は、冷静に出来事や自分の気持ちを整理することができます。そして、「相手にどうしてほしいかの」、「自分はどうすればよかったの」と聞くことです。そうすると、的を射た答えが返ってきます。そしたら、「これからどうすればいい。」「相手に何と言おうか」と解決策を尋ねるのです。答えは子供の中にあります。それを引き出すやりとりを重ねることを繰り返すと、人のせいにしなくなります。それは、子供の問題解決の力が付いたからです。

Q:ふだんの生活で、子供と関わる時間があまり取れません。何か工夫はありますか。

A:私も30年前には、2人の子供を育てながら働いていました。夫は帰りが遅くほぼワンオペ状態でした。子供とかかわる時間をもちましようと言われても無理です。食べさせる・寝せることで精一杯です。子供が病気になると近所の方やママ友に預け、授業だけを行い家に帰っていました。

私は休日に自転車の前と後ろに子供を乗せ、よく図書館に通いました。そこで、10冊ずつ絵本を借りて、每晚読んであげていました。たった5分、10分でしたが、言葉や感性を育てるのに役立ったと感じています。

今は、2ヶ月と2歳半の孫がいます。育児を応援しつつ、子供の成長を楽しんでいます。一人で育児をすることは不可能です。保育園も含め、身のまわりの人は育児のための戦力です。人や物に頼ることも大事です。